



3年学年だより

発行日：令和2年 2月 29日（土）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：三浦 昌彦 NO. 10

令和元年度の有終の美を求めて

今月は南高校附属中学校9期生適性検査、南高校67期生高校入試が実施されました。南高校および附属中学校にも新しい春の足音が聞こえてきます。令和元年度の附属中学校の生活も残りひと月となりました。今年度の総仕上げをしている各学年の様子をお伝えします。

保護者の皆さま、1年間さまざまな場面でお力添えいただきありがとうございました。令和元年度も残りひと月、よろしく願いいたします。

今まで頑張ったことと、これからと

3年学年主任 梶ヶ谷 朋恵

この南高附属中で学年主任として一つの学年を担当するようになって、6年目が終わろうとしています。学年でいうと3期生の3年間、そして6期生の3年間です。雰囲気もキャラクターも違う2つの学年の皆さんと過ごし、もうすぐ附属中学校を卒業する6期生を眺めて、感慨もひとしおです。

6期生は、集会などで何度も直接話した通り「自分のやるべきことに“当たり前”にきちんと真面目に”取り組む”ことができる人たちが大勢います。その真面目さが活きやすい雰囲気を作ったのも6期生です。本当に大切なことだと思います。なかなかうまくできないメンバーへの視線も温かく、厳しくアドバイスをしたり、そっとしておいてあげたり、良い仲間だなと思うシーンをたくさん見てきました。個々の頑張りに頭が下がる一方で、集団としてのムード作りや、皆でいるときの「自分から」という姿勢には、まだまだ課題が残っていると思っています。3年前に送り出した3期生が、高校に行って当時の良さをそのままに、課題だったところが改善されていく様子を嬉しく思う今、6期生のこれからは、とても期待しています。新しい出会いもあります。附属中で培った良さを忘れずに！応援しています。

体験から学ぼう

2年学年主任 朝比奈 康江

突然ですが、皆さんは今年、何回間違えることができましたか？1年生の時、道徳科で「教室はまちがうところだ（まきた しんじ）」という詩を学習しました。「間違えることを恐れない、仲間が間違えてもそれを笑ったりしない教室を作ろう」という内容でした。

中学2年生の一年間は、宿泊行事があったり、部活動や学校行事でも活躍する機会が増えたりと、さまざまな体験ができたと思います。実際に行動してみると、想像どおりにいかず、壁にぶつかることもあったでしょう。でもそれは意味のないことではありません。本をたくさん読み、他の人と話し合いをする機会も大切ですが、体験から学ぶことは多い、もっと言えば体験しなければ分からないこともあります。失敗を恐れず挑戦すること、失敗したら素直に反省し、課題を見つけて粘り強く取り組むこと、そんな7期生でいてほしいと思います。

4月から最上級生です。しなやかで優しい心を持ち、附属中の新しい1ページを創っていきましょう。

ほんのちょっとした声かけひとつで

1年学年主任 蛭田 真生

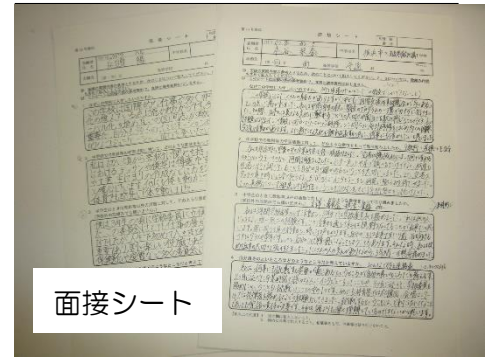
4月の入学からもうすぐ一年ですね。この一年、8期生のみんなと一緒に過ごしてきて、嬉しいこと、楽しいことがたくさんありました。たとえば先月の私の誕生日のこと、授業でクラスに入ると、「おめでとうございます！」とたくさんの人が声をかけてくれました。サプライズでバースデーソングを歌ってくれたクラスや、メッセージカードをくれたクラスもあり、とてもあたたかい気持ちになりました。みんなありがとう。誰かのために何かをしようという気持ち、本当に素敵だと思います。

みんなには、相手の心を幸せにできる大きな力があります。普段の何気ない日常、家族と過ごす時間、友達と過ごす時間、ほんのちょっとした声かけひとつであなたのまわりの世界が変わります。思いやりの気持ち、ありがとうの気持ちを伝えあって、みんなであたたかい毎日にしていきましょう。

吾十有五にして学に志す ～公立高校面接シートより～

附属中学校の2月は、来春の新生を迎える適性検査や高校入試があり、独特なひと月です。6期生のみなさんも学校と家庭とで、有意義に過ごしていたことと思います。

2月14日（金）～17日（月）は6期生のみなさんにとっては、EGG卒業論文のラストスパートおよび期末試験準備スタートの切り替えのタイミングでしたが、世の中の多くの15歳は公立高校入試でした。現在公立高校入試には筆記試験と面接があります。筆記試験は5教科の3年間全範囲からの出題です。また面接は、出願時に『面接シート』を提出し、それに沿って複数の高校の先生方が面接官となり、中学校3年間で頑張ったことやこれからの高校3年間で頑張ろうと決意していることを話します。そこで6期生のみなさんにも、未来の高入生と同じタイミングで、進路学習および国語のスピーチ学習の一環で『面接シート』に取り組みました。



附属中学校だからといって、自動的に高校進学するものではありません。15歳というのは自分のことを見つめ、考え始める節目の年齢です。義務教育を終えるということは、自分を見つめ、自分の道を考え始めるスタート地点なのです。3年前に附属中学校を受検した時はまだ幼かったかもしれませんが、もう15歳です。大人の入り口です。「高校に入学したら頑張りたいこと」「自分が中学校の3年間でがんばったこと」「自分自身の良いところ」など、なかなか自分から考えることは少ないでしょう。この『面接シート』への取り組みをきっかけに、これから先も絶えず自分自身に問い続け、軌道修正しながら、自分の道を自分の足で歩んでください。3年間ともに過ごしてきたなかの前で、スピーチの形で現在の自分の決意を表明し、おたがいの3年間の成長を認め、これから3年間を応援しあうなかまであってほしいと切に願います。

面接シート 1・なぜこの学校に入学したいのですか。

1組より 私は将来、世界規模で、たくさんの国の人たちとコミュニケーションを取りながら仕事をしたいと考えています。そのためには、まず英語力の習得やグローバルな視点を養うことが不可欠です。南高校には3年間を通して、様々な国際交流の機会があり、私の夢の実現にぴったりだと思いました。南高校に入学したら TRY&ACT や様々な研修に積極的に参加していきます。

2組より 学校の勉強も行事も全力で行っているからです。学生だから、勉強に全力で取り組むことは当たり前だと思います。勉強も頑張りながら、体育祭や合唱コンクール、文化祭などの行事も全力で楽しく取り組む、そんな南高生がステキだなと思いました。だから、私も、勉強も行事も全力で楽しく取り組める南高生の一員になりたいと思いました。

3組より 自分は南高校の国際性豊かで創造力を大切に教育を受けたいと思いました。自分は異文化に触れることが大好きです。今まで自分が普通だと思っていたことが彼らにとって意外なことであったり、またその逆であったりと、異文化に触れることは一度自分の常識を取り払うことだと思います。また、それは自分を見つめ直し、成長する大きなチャンスであるとも思います。

4組より TRY&ACT という総合的な学習で日々の学習を生かして発表を行うことや、シンガポールへの海外研修へ行き、英語学習の成果を発揮する機会があるということが魅力的だったからです。また、三年間、南高祭に参加し、学校全体の雰囲気が明るく活発で、生徒一人ひとりが南高祭を盛り上げようという意志を感じたので、私も南高校の生徒の一員になりたいと思ったからです。

面接シート 2・中学校での教科等の学習活動に対して、どのような意欲をもって取り組みましたか

1組より 学習を自分のことにつなげることを頑張りました。例えば国語の単元ごとに振り返りを書く活動では、私は、今回の学習は自分の生活のどんなところで活用できるかということ、常に考えるよう心がけてきました。その成果もあって、入学した頃は本当にほぼ何も話せなかったスピーチも、メモだけではっきりと話せるようになりました。

2組より 私は社会の授業のディベートを頑張りました。中学校では、社会の授業で現代の様々な問題に対して、賛成か反対かのディベートをよく行いました。賛成、反対、どちらの意見も考えなければならないので、根拠を論理的に組み立て、説得力のある意見をつくる力がついたと思います。また、ディベートでは、自由討論の時間もあるため、相手の意見に対して臨機応変に対応する力がついたと思います。

3組より 私は以前、理科の生物分野に苦手意識を抱いていたのですが、今までおこなってこなかった別のノートに学習内容をまとめるということに取り組むと、覚えるべき用語や植物の生きる仕組みが頭の中にどんどん入ってきて苦手意識をなくすことができました。学習活動では、このように苦手なことがあっても諦めずに自分に合った勉強法を模索し、必ず克服しようという粘り強い意欲を持って取り組みました。

4組より 私は、特に数学の授業において、自分で考える時間を確保して、自分の考えを常に持つようにしました。また、友達の考え方をたくさん聴いて、自分と異なる考え方をその違いとともに理解するようにして、答えを求めるだけでなく、そのプロセスも含めて深く考えるよう心がけました。高校でも、自分の考えをしっかりと持ち、仲間との考えの交流を楽しみながら、学習に取り組みたいです。

面接シート 3・中学校のときに教科等以外の活動に対して、どのような意欲をもって取り組みましたか

1組より 私は部活動において、吹奏楽の合奏を指導する「学生指揮者」を任せられていました。そこでは自分の一言によって音楽の良し悪しが変わってしまうため責任感が芽生え、また言葉を選んだり適度にジェスチャーをつけたりすることで「伝える」力も身に付きました。そして、独りよがりにならないよう、他の学生指揮者と相談したり意見を聞いたりもしてきました。この役割が自分を見つめ直させてくれ、意欲をもって活動できました。

2組より 合唱コンクールを運営する委員会に所属し、クラス全体の練習を仕切り、また本番の運営に携わりました。本番が直前に迫ってきてもなかなかクラス全体がまとまらず、練習を円滑に進めていくことができず苦しみましたが、練習に前向きに取り組んでもらえるよう、クラスのいいところを多く指摘するようにしました。人のいいところを指摘するのは苦手だったが、その経験以降、いいところに着目してものごとを考えることができるようになりました。

3組より 私は特に委員会の活動に力を注ぎました。学年レクを催したときにはタイムスケジュールから生徒の隊形までを0から作り上げ、協力の大切さと企画の大変さを知りました。それぞれの会議で出した内容や決まったことをはしご役としてクラスに伝えたり、学年のリーダーとして集会を運営したり行事を企画したりしました。自分の行動が160人に影響することをきちんとわきまえ、新しいアイデアや案を出し、常に委員会が学年のために行動できるように参加しました。

4組より 中学校の係活動では、自分の仕事を必ずこなそうという意欲を持って取り組みました。私は、黒板を消す仕事を持っていたのですが、こなさなければ、他の人への負担が増え、迷惑をかけてしまうので、必ず取り組んでいました。この活動で、自分の持った仕事は必ず行うという責任感が生まれました。その責任感を南高校での教科以外の活動にも生かしていきたいと考えています。

面接シート 4・自分自身のよいところはどのようなところだと考えていますか

1組より 自分の良いところは、粘り強いことだと思います。国語の文章を書く学習や、合唱コンクールのクラス曲の伴奏など、自分が納得いくものができるまでずっと考えたり、ずっと練習したりしてきました。冬休みの書き初め課題も3日かけて仕上げました。一つのことに長い時間をかけてしまうこともあるけれど、自分が納得する良いものができることを目指して、粘り強く取り組むことが良いところです。

2組より 私のよいところは、人の支えになることができることだと思います。部活動でケガをしたとき、運動ができなくても、チームのサポートにまわったりして、少しでもチームのためになるようなことをしました。人の相談に乗ることも多いので、ここが私のよいところだと思います。

3組より 人の良いところを見つけ、自分に活かそうと努力することができることだと思います。「人の振り見て我が振り直せ」ということわざが自分自身を良く表していると思います。私は人の良いところを見つけたとき、素直に「この子すごいな」「こういう人素敵だな」と思います。そういう気持ちを大切に私自身にも何かいかせないかと考え、実行しようと努力することができます。

4組より どんなことでも熱中して最後まで頑張ることができることだと思います。1歳頃に習い始めた水泳は、友だちに負けないよう、今まで努力してきました。また、他の教科よりも積極的に勉強してきた社会と英語は、まだ苦手意識はありますが、少しずつできるようになってきたと感じています。所属していたバドミントン部では、いい結果を残すことはできなかったものの、最後まで全力で取り組み、悔いなく終わることができました。



面接シートの4項目を盛り込みながら、国語の時間では一人ひとり、『あれから3年、これから3年』というスピーチを行っています。話し手としては、自分を語ることに気恥ずかしさを感じますが、聞き手としては温かく興味深く聞き入っています。

おまけスペース

このスペースは、もともと3月上旬の行事のお知らせを掲載していました。しかし、それらの行事が中止になりましたので、このスペースを借りて現在の花壇の様子をお知らせいたします。期末試験最終日に保健美化委員さんが予定していた花壇の整備を、委員さんたちに代わって委員会担当の先生たちで花の球根を植えました。6期生の皆さんが高校生活に慣れてきたころ、咲くのかな？楽しみに！

